

総務建設委員会視察研修報告

○日 時 平成30年7月18日（水）～7月19日（木）

○研修先 ・静岡県 下田市

【2020 東京五輪サーフィン競技ホストタウンの取り組みについて】

・静岡県 伊豆市

【自転車を利用したサイクルツーリズムの取り組みについて】

・静岡県 熱海市【観光振興の取り組みについて】

総務建設委員会では、「牧之原市の活性化と観光について」をテーマとして調査・研究を進めており、今後の市への提言の参考とするため先進事例の視察を実施した。

○静岡県 下田市「2020 東京五輪サーフィン競技ホストタウンの取り組みについて」

黒船来航で知られる下田市は、平成29年12月、牧之原市と同じ2020東京五輪の米国ホストタウン（サーフィン）として登録された。

2月には、行政及び関係機関で組織されるホストタウン下田市推進協議会が設置され、事前合宿等の選手受け入れや市民との交流事業を積極的に推進していくということであったが、市民への周知や意識の醸成などが課題として挙げられており、中学生へのサーフィンスクールの開催やホストタウンのポスター作成を行うなどの活動を通し、若年層・若者層からの浸透を図っていくということだった。

今後、両市の行政・議会が連携を図り、ホストタウンの機運を盛り上げていくことで相乗効果が期待できるような様々な取組みを行っていくことを確認した。



○静岡県 伊豆市「自転車を利用したサイクルツーリズムの取り組みについて」

2020 東京五輪の自転車競技の開催地に決定しているが、以前から自転車レースなどが盛んな地域である。伊豆半島が世界ジオパークに認定されるなど、伊豆地域全体が起伏に富む自然を利用したコースとしてサイクリングに適しているといえる。

一方、市民の関心は決して高いとはいえないことや、地形的に自転車を利用しにくいことなどから、市民の自転車利用は少ない状況である。

2年後のオリンピック開催を控え、市民意識やおもてなし精神の醸成、機運の盛り上がりが期待されている。

○静岡県 熱海市「観光振興の取り組みについて」

バブル崩壊後の観光客の激減、税収減などによる財政難から「財政危機宣言」を行った。その後、新たなブランドイメージの創出に着手するため、観光プロモーション事業により観光ブランドイメージの刷新を行った。首都圏からのアクセスの良さに加え、「意外と熱海」というコンセプトによる様々な取り組みなどの結果、宿泊客数はV字回復の傾向にある。

また、新たにロケ支援や別荘コンシェルジュにも積極的に取り組んでおり、民間主導によるまちづくりが盛んなことが熱海の復活を支えているともいえるのではないかと感じた。

総務建設委員会では、今回の視察や市内各種団体との意見交換を参考に、これから委員会の活動及び政策提言に活かしていきます。